

実践報告書（中学年ブロック）

- 1 単元名 段落とその中心をとらえて読み、かんそうをつたえ合おう
教材名 こまを楽しむ

2 学校課題研究とのかかわり

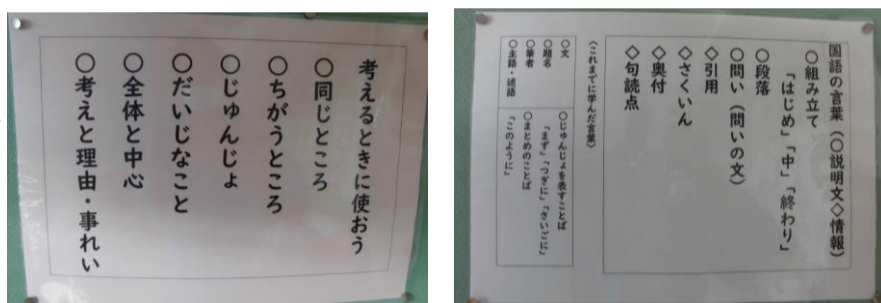
【仮説1に対する手立て】

- ①語彙や言葉に着目した指導（情報と情報の関係）、言葉による見方・考え方を働かせる指導を丁寧にする事で、読解力を高める。
- ②多感覚を活用した授業を展開することで、キーワードのイメージを高め、文と文のつながりや文章構成、説明文の論理を確実に定着させる。
- ③国語科固有の言葉を獲得させ、明示的な指導を展開する。既習事項を、次の説明文と関連付けて読ませることで、有意味で深い学びにつなげていく。
- ④既習事項を生かし、児童自らが課題を設定し、問題解決していく場を設定する。

仮説1-①② 語彙や言葉に着目し、多感覚を活用した「考える音読」



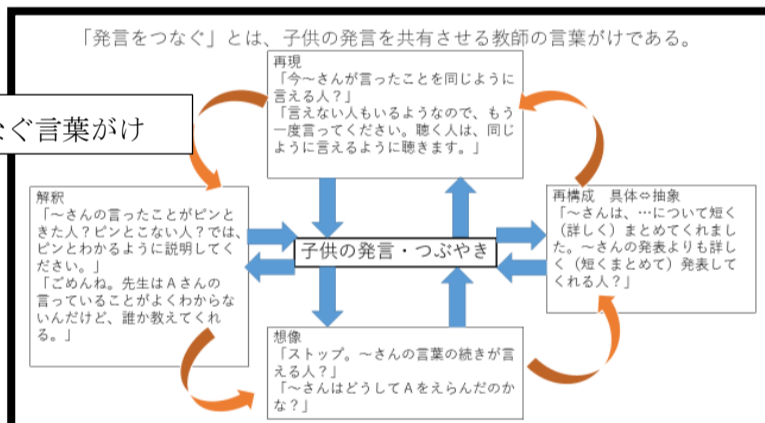
仮説2-② 自分の考えをまとめる言葉や視点



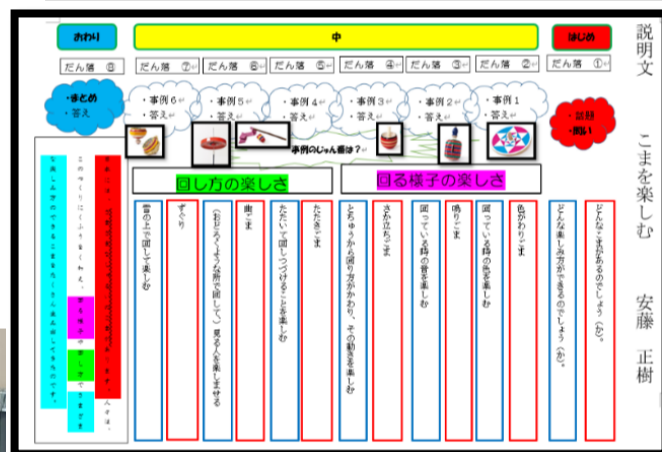
【仮説2に対する手立て】

- ①図、表、全文シート（文章構成図）、思考ツール、説明文の美しさ（視覚的な分類）などを活用し、学び方を定着させる『構造と内容の把握』。
- ②「考えるときに使おう」の語句やキーワードを手掛かりに、自分の考えを伝える場を設定する。考えを伝え合う場の中で、「国語の言葉」を使って書き出しをさせたり、まとめさせたりすることで、国語の表現力を高めていく。
- ③確認する場面、共有する場面、理解する場面、深化する場面、まとめの場面を使い分け、自己決定の場を多くする。特に「決める場面」と「決め直す場面」を設定することで、主体的・対話的で深い学びにつなげていく。
- ④子供の発言をつなげ、共有させるために、教師がファシリテーター役となる。再現、想像、再構築、解釈など、子供の発言をつなぐことで、対話的で深い学びにつなげていく。

仮説2-④ 子供の発言をつなぐ言葉がけ



仮説1-①、2-① 全文シート（文章構成図）



仮説1-①③ 語彙や言葉に着目した指導、明示的な指導

3 単元の目標

- (1) 段落の役割について理解することができる。 <知識及び技能> (1) カ
- (2) 全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。 <知識及び技能> (2) ア
- (3) 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係等について、叙述を基に捉えることができる。 <思考力、判断力、表現力等>C (1) ア
- (4) 説明の工夫を叙述から進んで捉え、読んで考えたことを伝え合おうとする。 <学びに向かう力、人間性等>

4 単元で取り上げる言語事項

記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動（関連：言語活動例ア）

単元を貫く言語活動として、「一番遊んでみたいこまについて、交流し、共通点や相違点など、考えたことをまとめる」を設定した。本文全体の中から、必要な情報を取り出したり、段落相互の関連性（相違点など）を考えたりする学習であるとも言える。この学習計画は、学習指導要領に位置付けられた中学年の、言葉の特徴や使い方に関する事項「(1) カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること」、情報の扱い方に関する事項「(知 (2) ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること」【情報と情報との関係】、読むことの指導事項「思C (1) ア「読むこと」において、段落相互の関係に着目し、考えとそれを支える事例との関係を、叙述をもとに捉えること」【構造と内容の把握】、を身に付けるのにふさわしい言語活動だと考えられる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
①段落の役割について理解している。 (1) カ ②全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 (2) ア	①「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 C (1) ア	①説明の工夫を叙述から進んで捉え、読んで考えたことを伝え合おうとしている。

6 指導と評価の計画 (全6時間)

教材	時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
言葉で遊ぼう	1	○『言葉で遊ぼう』を通読し、「段落」について知る。 ○「問い」が何か、確かめる。 ○事例がいくつあるか、確かめる。	○学習の見通し ○問の文の見つけ方 ・問いの文の文末表現 ・問いの文の位置 ○事例の見つけ方	活動や発表の様子 態度の考察 【知 (1) カ】
	2	○「問い」と「答え」に注目して、各段落の内容を読む。 ○全文を色分けし、どこに、何が書いてあるか確認する。	○答えの見つけ方 ・答えの文の位置 ・文の順番 ○文と文とのつながり ○音読のやり方 ・考える音読	活動や発表の様子 態度の考察 ・ワークシートの内容 【知 (1) ア】
こまを楽しむ	3	○『こまを楽しむ』を通読し、2つの「問い」を捉える。文章構成 (はじめ、中、おわり) を確認する。	○全体のまとめ ・はじめ、中、終わり ○具体と抽象 ・このように つまり⇔例えば	活動や発表の様子 態度の考察 ・ワークシートの内容 【知 (1) カ】
	4	○2～7段落を、「問い」に対する「答え」に着目して読み、中心となる言葉や文を確かめ、整理する。	○答えの見つけ方 ・答え1 ・答え2 ○中心文 ○中心文の位置	活動や発表の様子 態度の考察 ・ワークシートの内容 【知 (1) ア】
	5 (本時)	○「終わり (8段落)」は、「はじめ」と「おわり」の内容をどのようにまとめているか考える。 ○事例の順序には、筆者の意図があることに気づく。	○終わりの役割 ・抽象的、簡潔なまとめ ・中と終わりの対応関係 ○事例の順序 ・分類の仕方 ・作者の意図	活動や発表の様子 態度の考察 ・ワークシートの内容 【思C (1) ア】
	6	○一番遊んでみたいこまについて、交流し、共通点や相違点など、考えたことをまとめる。	○感想の交流 ・同じところ ・違うところ ・理由	活動や発表の様子 態度の考察 ・ワークシートの内容 【主①】【知 (1) ア】

7 本時の学習指導 (5/6時)

(1) 目標

- 「終わり」の文の説明のいいところを話し合う活動を通して、「終わり」と「はじめ」「中」との対応関係や、筆者の事例の意図を捉えることができる。
＜思考力、判断力、表現力等＞C (1) ア

(2) 評価規準

- 「終わり」と「はじめ」「中」との対応関係や、筆者の事例の意図を捉えている。【思考・判断・表現】

評価について 【思・判・表①】 <評価方法>ワークシート(振り返り)の考察
 ・「終わり」の説明のよさを、国語の言葉を使い、説明できる児童をB評価とする。
 ☆本時で想定している国語の言葉…はじめ、中、終わり、終わりの中とのつながり、(筆者の考える)事例の順番、全体のまとめ、まとめの言葉(「このように」)、問い、答え、
 <「努力を要する」状況(C)への手立て>・文章構成図を活用し、説明の順番を確認する(視覚化)。「このように」の意味を確認する。
 A評価・・・「終わりの」説明のよさを、複数の観点から説明している。
 <B→Aへの手立て>・各文の説明のよさに視点を持たせ、文ごとのよさについて考えさせる。

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導の意図と児童の学習の様子
1. 音読（考える音読）をする。 （全体） 2. 「問い」と「答え」の位置を確認する。 3. センテンスカードを用いた、8段落の音読。	○教材の音読 ○「問い」と「答え」の確認 ○8段落に書かれていることの確認	キーワードに着目した音読をすることで、前時までの学習を想起させる。「考える音読」をすることで、読み取ったことを身体表現させる。「考える音読」は、宿題にも出し、家庭学習にも活用している。  どの段落も、読み方が同じだね。 こまが右で、楽しみ方が左だね。 ゲーム要素を取り入れた、キーワードの間違え探しゲーム。この間違え探しの正答（キーワード）は、授業者が意図的に選択し、本時の授業のねらいと関係している。児童が授業の中盤以降、このキーワードに着目しやすいうように、視覚化して掲示する。【問題意識の醸成】
4. 終わりの文のいいところについて、話し合う。 （ペアトーク・全体） 【言語活動】	○学習課題の確認 ○終わりのいいところ ・「はじめ」「中」との対応関係	8段落の3つの文の中から、特にいいな、と思った一文を選ばせ、ワークシートに記入させる。どの文を選んでも、正答になる。「はじめ」や「中」との対応関係を目を向けている子を意図的に指名する、問い直しをするなど、子供の学びの文脈に合った、スムーズな授業展開になるように工夫する（ファシリテーション力）。【全員参加の学習課題】 色分けされたセンテンスカードから、「終わり」と「中」の関連に目を向けさせる（明示的な指導）。「中」との対応関係がわかりやすい、「思考の見える化」を意識した板書を作る。【学習のまとめ①②】  一番がいい。このように、で全部をまとめてみる。 二番がいい。同じ「中」や違うところを言っている。
5. 事例の順序について、話し合う。【言語活動】 （ペアトーク・全体） 6. 筆者の説明の工夫を整理する。	○「おわり」と事例の順序 ・回る様子 ・回し方 ○事例の順序 ・作者の意図	学びの連続性をもたせる、揺さぶり発問をする（こまの写真を入れ替え、事例の配置に目を向けさせる）。【まとめの後の揺さぶり】 拡散した思考を収束させるため、穴埋めした『筆者の言葉』を提示し、筆者の事例の順序の意図について考えさせる。8段落の3文目の表現を基に、事例の分類（仲間分け）や順序について考えさせる。事例の順序を扱うことで、本時のねらい（まとめと中の関係）により深く迫った。【学習のまとめ③】  最初の三つのこまは、回る様子を楽しんでるね。 中も終わりも、「一回る様子を楽しむ」「一回し方を楽しむの順に書いてあるんだ。 中村先生、かっ手に、こまを動かさないで、事例のじゆん番には、きまりがあって楽しむの、を楽しく、なまにだけたんです！
7. 本時のまとめをする。 8. 学習の振り返りをする。	○本時の学習をまとめること ○本時の学習を振り返ること	ワークシートに振り返りを記入し、本時の学びや気づきを確認できるようにする。振り返りの視点を明示する。 

児童の振り返りの様子



①はじめ、中とつながりがあるのがはじめで知った。②まっはし、えいきんくんのいけんがいと思ひました。④これから

こまを楽しむという作品は問いでどんなこまがあるのしょうかまたどんな、楽しさができるのしょうかと、まっはし、えいきんくんのいけんがい、んせいは、こま、その一文には、楽しさがかいてあり、おもてろいなとおもひました。

おわりのいいところは、このように説明明女には、このようにも、楽しめ方とはじめ、中とつながりがあるんだな、とは、はじめでしりました。

②こまは、このつがいで、まっはし、えいきんくんのいけんがい、んせいは、こま、その一文には、楽しさがかいてあり、おもてろいなとおもひました。

③こまは、このつがいで、まっはし、えいきんくんのいけんがい、んせいは、こま、その一文には、楽しさがかいてあり、おもてろいなとおもひました。

④こまは、このつがいで、まっはし、えいきんくんのいけんがい、んせいは、こま、その一文には、楽しさがかいてあり、おもてろいなとおもひました。

成果と課題

- <成果>
- ・振り返りシートを毎時間同じ紙に書いて積み上げていくことで、児童の変容や振り返りでの表現が見とることができてよい。さらに、校内で揃えるのであれば、学年ブロックごとに書き方やシートを効果的に活用できる工夫をするとよい。
 - ・全文シートについては、段落の関係についてなどを、整理や色分けがしやすい。
- <課題>
- ・事例を動作化することは、内容把握の有効な手立てであるが、言葉による見方を働かせる授業展開も必要である。
 - ・仮説に対して多様な手立てが考えられることから、校内、ブロックでどの、方向性（何を参考にするか）でいくかを決めておくと良い。
 - ・まとめについても、自分言葉で書かせる児童を増やしていきたい。
 - ・書けない子を想定したシートの作成も考える必要がある。